

銃社会と訴訟社会—。

アメリカという国を象徴的に物語る

ふたつの問題を切り口に、

裁判の裏と表でヒートアップする激烈な頭脳戦を、

疾走感あふれるタッチで描いた

まったく新しいリーガル・エンタテインメントが登場!

今、フォルトシモの興奮が、法廷に鳴り響く!

ニューオーリンズの証券会社で銃の乱射事件が勃発—。犯人は11人を射殺し5人に重症を負わせ自殺。その2年後、執行に使われた銃の製造と販売責任をめくり、犠牲者の未亡人が訴訟を起こした。訴えられたのは大手の銃器メーカー。もしもメーカー側がこの裁判に負ければ、全米中で同様の訴訟の嵐が巻き起こるのは必至となる—。必ず勝たなければならない闘いを前に、メーカー側はやり手の陪審員コンサルタント(フィッチ/ジーン・ハックマン)を雇い、評決の鍵を握る陪審員に対しての裏工作を進める。その渦中で、暗躍を始める一人の陪審員(ニック/ジョン・キューザック)。謎めいた過去を持つ彼はある「目的」を持って陪審員に潜り込んでいた。果たして彼の目的は?そして原告・被告双方に「陪審員、売ります」のメモを送りつけた謎の女(マリー/レイチェル・ワイズ)の正体とは?苦しい闘いの中での原告側弁護士(ローア/ダスティン・ホフマン)の下した決断とは...?全米中のマスコミが固唾を呑んで見守る中、熱いバトルの幕が上がった!



トリアル
この裁判は———プライドの殴り合い。

評決をほしのままにしてきた伝説の陪審コンサルタント。

評決を金で買う誘惑に駆られる弁護士。

評決を操ろうとする一人の陪審員。

そして評決を買わないかと持ちかける謎の女。

勝負の地はニューオーリンズ。

訴えられたのは大手銃製造メーカー。

法廷の表と裏で巨額の賠償金と正義を賭けた

ゲームの火蓋が切って落とされる!

レイチェル
ワイズ

ジーン
ハックマン

ダスティン
ホフマン

ジョン
キューザック



ニューオーリンズ トリアル



BASED ON THE BEST SELLING JOHN CRISHAM NOVEL

DIRECTED BY GARY FLEDER

REGENCY ENTERPRISES PRESENTS A NEW REGENCY PRODUCTION A GARY FLEDER FILM JOHN CUSACK GENE HACKMAN DUSTIN HOFFMAN RACHEL WEISZ "RUNAWAY JURY"
 BRUCE DAWSON BRUCE MCGILL JEREMY PIVEN NICK SERRANO PRODUCED BY JOHN CRISHAM AND JOHN CRISHAM WRITTEN BY PETER AFTERMAN AND JEFFREY DOWNER DIRECTED BY ADRIAN MORRISY EDITED BY WILLIAM STEINKAMP, A.C.E.
 EXECUTIVE PRODUCERS NELSON COATES PRODUCED BY ROBERT ELSWIT A.C.E. AND JOHN CRISHAM PRODUCED BY BRIAN KOPPELMAN & DAVID LEVINE AND FRED CLEVELAND AND MATTHEW CHAPMAN
 PRODUCED BY ANTHONY MILCHAN GARY FLEDER CHRISTOPHER MANKIEWICZ PRODUCED BY GARY FLEDER

監督:ゲイリー・フレダー(「コクター」[コクター]「サウンド・オブ・サイレンス」)/原作:ジョン・グリシャム「陪審評決」(新潮文庫)

サントラCD:ジェネオンエンタテインメント、ランプリング・レコーズ/原題:RUNAWAY JURY/配給:東宝東和株式会社

2004年1月31日(土)《開廷》ロードショー

eigafan.com

2004.1/31 ROADSHOW

『映画ファン最高のごちそう——名優激突のお楽しみ』

夫を銃の乱射事件で奪われた妻が、銃器会社を訴えて起こす裁判を描くのが「ニューオーリンズ・トライアル」だ。この妻（原告側）をダスティン・ホフマン演じる庶民派弁護士ウェンドール・ローアが支える。

訴えられた銃器会社は、潤沢な資金をバックにジーン・ハックマン演じる凄腕の陪審コンサルタント、ランキン・フィッチを雇い、陪審員操作による勝利をもくろむ。

そこでローアとフィッチの対決になり、ダスティン・ホフマン、ジーン・ハックマンという当代きっての名優が激突するシーンは、映画ファンには胸ときめく感激だ。じつはこの二人、無名時代に一緒に暮らしていた親友同士。ハックマンが7歳年上で、すでに結婚していた彼の安アパートにホフマンが転がり込んだ、という売れない時代があった。

その後、ホフマンは「卒業」の迷える青年役で一世を風靡。『クレイマー、クレイマー』と『レインマン』でアカデミー主演男優賞を受賞して名優の名を欲しままにしている。ハックマンは『フレンチ・コネクション』の刑事ボバイ役でアカデミー主演男優賞を受賞してスターの座をつかみ、『許されざる者』では助演賞を受賞。彼の出演で映画の格が上がる、と言われる大物性格俳優になった。

そんな二人の共演だけでも見物なのに、ここには彼らの激突が用意されている。片やローアは弁護士だが、フィッチはコンサルタントなので法廷ではなく、裁判所のトイレでの対決

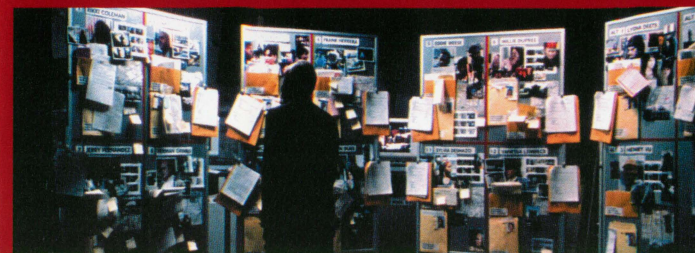
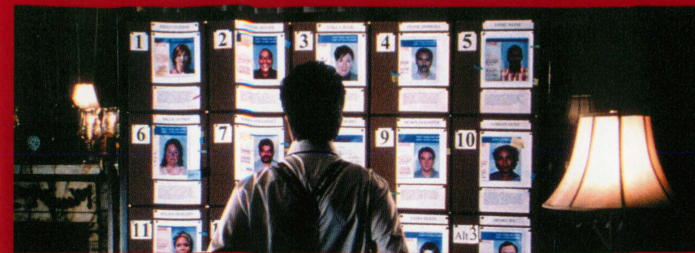
になり、憎悪をぶつけあうシーンは映画史上稀にみる演技の名勝負になった。

その時代を代表する大物スター同士の互角の共演、対決シーンを見るのは映画ファンの夢だが、ロバート・デ・ニーロとアル・パチーノの「ヒート」をあげるまでもなく、共演の実現を喜ぶことが先に立つ。それくらい実現は難しく、ましてや激突なんてである。彼らは実力が見えてしまうリスクを好まない。

ところがここでは、名優二人が役の上とはいえ憎悪をむきだしにして罵り合い、ぶつかりあうのだ。まさに白熱の闘い。そして、ここにはアメリカの同時代をともに歩んで名声を手にした二人の名優たちが、ただ共演するだけでなく、堂々と対決することを楽しんでいる様子がかがえるのが嬉しい。互いに自信も満々。そのカッコ良さたらない。

そんな激突を見せるハックマン、ホフマンと互角に渡り合いつつ、何かを企てて、謎から謎へと観る者を引っ張っていく陪審員9号と正体不明の女、ジョン・キューザックとレイチェル・ワイズ。最近、『アイデンティティ』で観る者を翻弄しきったキューザックと、冒険活劇「ハムナボトラ」のキュートなヒロイン、レイチェル。二人の組み合わせは、骨のある演技を見せつつも華のあるのが楽しい。じつは、彼らが役の上では名優たちを手玉にとる。ベテランもかたなし。これにはホフマンもハックマンも苦笑いしたことだろう。「いやあ、お互い年をとったね」なんて、絶対に言いそうもない二人だが。

渡辺祥子(映画評論家)



『ニューオーリンズ・トライアル』を楽しむために

中嶋博行(作家・弁護士)

陪審裁判は異例?

アメリカの裁判と聞いて、たれもが頭に思い浮かべるのは陪審裁判だろう。が、訴訟社会アメリカでも陪審裁判は非常にまれなケースなのである。全米で起こされる民事裁判は年間1800万件(日本は約250万件)、これに刑事裁判を加えると米国の訴訟数はまさに天文学的な数字に達する。その中で陪審員による正式事実審理(トライアル)に行きつくのは全体の数パーセントにすぎない。残りの95パーセント以上は和解で終わる。陪審法廷が開かれるのはきわめて異例なのだ。と同時に、いったん陪審裁判が始まったら、法廷は全面的な戦場になる。なぜなら、陪審法廷にもちこまれるのは和解や示談や司法取引で収拾のつかない「対決事件」だからだ。原告と被告は12人の陪審員の評決を勝ちとるために容赦のない、総力戦を闘いぬくのである。

陪審員の選び方は?

アメリカの陪審員はどのようにして選ばれるのだろうか。まず陪審員の候補者数十人が裁判所に集められる。陪審員候補者は選挙人名簿で無作為に抽出する。

裁判所は原告と被告、双方の弁護士の意見を聞いて数十人の陪審員候補者から12人の陪審員(と補欠2名)を選出する。実は、この選定作業こそが陪審評決の行方を左右する「カギ」といわれている。アメリカは人種や性別などによる価値観の対立が深く、たれを陪審員にするかで原告と被告のいずれが有利になるか変わってくるのだ。例えば、別れた妻を殺害した容疑で起訴されたO・J・シン普森は黒人多数の陪審団によって無罪評決を得た。原告と被告は自分に有利な陪審員はたれか、血まなこになって見きわめようとする。そこに登場するのが陪審コンサルタントである。

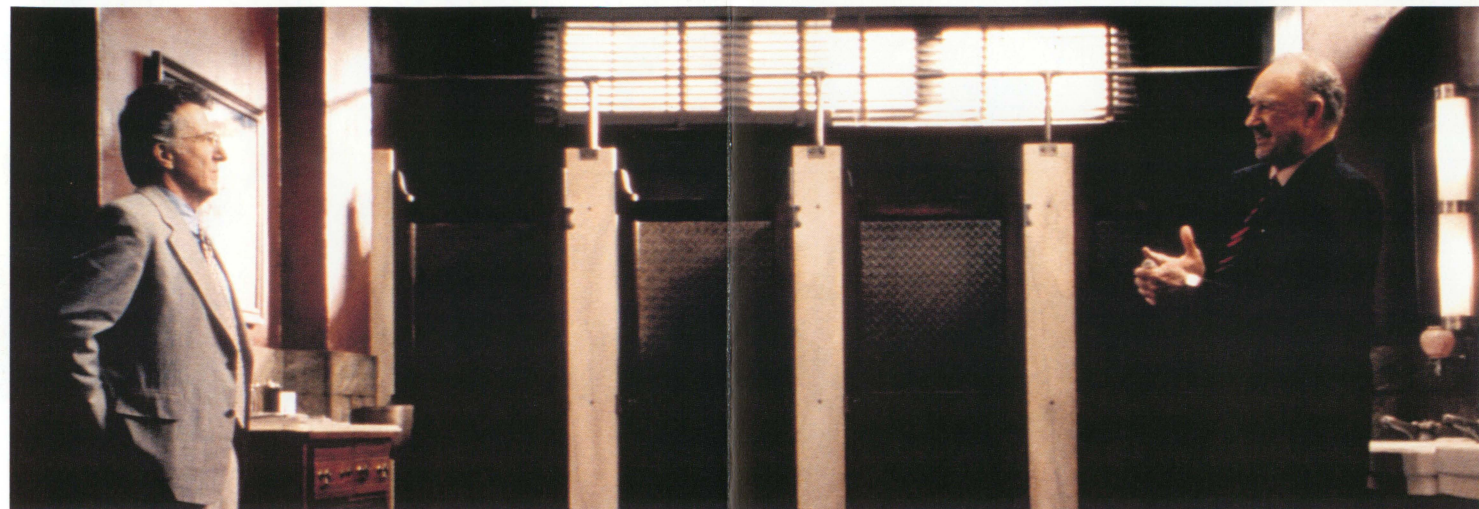
陪審コンサルタントは本当にいるのか?

陪審コンサルタントとは陪審員候補者の経歴、表情や仕草などを分析して、クライアントに有利な評決をたす人物か否かを判定する専門家である。陪審評決は全員一致が理想だが、半数以上の州は多数決(9人ないし10人の賛成)で決めている。陪審コンサルタントの使命はこの数を確保することにある。弁護士は陪審コンサルタントの意見にしたがって陪審員の選定をおこなう。こうした職業は現実には存在する。

陪審コンサルタントの手法は経験と直感に頼る部分も大きい。あくまで豊富なデータベースの上に立った分析的判断であり、その意味ではFBIの行動科学課が行なっているプロファイリングに近いものがある。

そして、日本では…?

陪審裁判は海の向こうの話だと思っていたら、日本にもまもなく裁判員の制度ができるという。平成16年に法律が制定される予定で、数年内には実施される。裁判員というのは裁判官と一般市民がいっしょに合議して評決をおこなう制度である(参審制)。とりあえず、裁判員の参加は重大な刑事裁判(死刑または無期懲役・禁固にあたる犯罪)に限定されるらしい。



☆ハリウッドを代表する演技派スターによるゴージャスなアンサンブル!

ジーン・ハックマン 「フレンチ・コネクション」 「許されざる者」(アカデミー賞受賞)	ダスティン・ホフマン 「クレイマー、クレイマー」 「レインマン」(アカデミー賞受賞)	ジョン・キューザック 「アイデンティティ」 「アメリカン・スウィートハート」	レイチェル・ワイズ 「ハムナボトラ」シリーズ 「スターリングラード」
--	--	--	--

